

安心・充実の旅

- 一般観光旅行とは異なるテーマや趣旨に沿った旅づくり
- 観光を短縮するような買物めぐりはしません！
- 詳しい資料やきめ細やかなご案内-安心・充実の旅
- 格安ツアーに見られる「安かろう・悪かろう」にしない「こだわり」の旅

● ご旅行条件 (要約)

● 募集型企画旅行契約
この旅行は株式会社ユーラス（以下「当社」）が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加するお客様は当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行契約」）を締結し、(株)ユーラストラベルが問合せ・申込みを受け付けます。条件は下記他、別途旅行条件書（全文）、出発前にお渡しする最終旅行日程表=確定書面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。

● 旅行条件・旅行代金の基準
この旅行条件は2017年7月1日を基準としています。また、この旅行代金は2017年7月1日現在の有効なものとして公示されている運賃・規則、又は2017年7月1日現在認可申請中の航空運賃・適用規則を基準として算出しています。

● 旅行契約の解除
最少催行人数に達しなかった場合、旅行を中止することがあります。この場合は、出発の23日前（ピーク時は33日前）迄にお知らせします。

● 取消料
旅行契約成立後、お客様の都合で契約を解除される場合は、下記の金額を取消料として申し受けます（お一人様）。

契約解除の日	取消料
旅行開始日の前日から起算して遡って40日目にあたる日以降～31日【ピーク時】4/27～5/6,7/20～8/31,12/20～1/7に開始する旅行	旅行代金の10%

契約解除の日	取消料
旅行開始日の前日から起算して遡って30日目にあたる日以降	旅行代金の20%
旅行開始日の前々日以降	旅行代金の50%
旅行開始後の解除又は無連絡不参加	旅行代金の100%

※オプション・ツアー代金も上記取消料に準じます。
※査証（ビザ）取得実費代金、渡航手続手数料は、そのまま申し受けます。

- 旅行代金に含まれるもの（一部例示）
- ・航空運賃：旅程に表記した区間の個人包括旅行運賃
 - ・宿泊料金：2人部屋基準、税・サービス料
 - ・食事代：旅程に表記のもの
 - ・空港、駅～ホテル間の送迎車料金
 - ・添乗員同行の経費（同行と明示した場合）
 - ・鉄道運賃（旅程に明示したもの）
 - ・旅程に明示した市内（郊外）見学のガイド料、入場料、チップ

- 旅行代金に含まれないもの（一部例示）
- ・旅程以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
 - ・渡航手続費用：旅券印紙代（新規に申請される場合）
 - ・渡航手続手数料：出入国記録等書類作成費用、査証（ビザ）取得実費・手数料
 - ・超過手荷物料金：規定の重量・大きさ・個数を超える分

- ・個人的費用：電話、電報、FAX、クリーニング代、追加飲食費用
- ・一人部屋追加料金（相部屋の方がいない場合も同様）
- ・空港施設使用料、航空保険料および保安料
- ・訪問国入国税、燃油特別付加運賃
- ・日本国内の交通費、前泊の費用、ポーター
- ・任意の海外旅行傷害保険料、オプション料金

- その他(1) 旅行代金はお一人分を表示しています。
(2) 当社所定の申込書にお客様のローマ字氏名記入の際には、使用されるパスポートに記載されている通りにご記入ください。氏名が誤って記入された場合は、航空券の発行替え、関係する機関への氏名訂正などが必要で、この場合、当社は第15条「旅行者の交替」に準じ、交替手数料をいただきます。なお、運送・宿泊機関の事情により、氏名の訂正が認められず、旅行契約を解除いただく場合もあります。この場合には、「旅行契約後の取消」に準じて手数料をいただきます。
- 当社の募集型企画旅行にご参加いただくことにより、航空会社のマイレージを受けられる場合がありますが、同サービスに関わるお問合せ、登録等はお客様自身で当該航空会社で手続きいただけます。
- 時間帯の目安
以下の通りです。航空機、バス等の移動時刻をもとにした目安です。実際の時刻とは異なる場合がありますので、予めご了承ください。

早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜
4時	6時	8時	12時	17時	19時	23時

● 問合せ・申込先

東京都知事登録旅行業 第3-6973号 日本旅行業協会正会員 株式会社ユーラストラベル
総合旅行業取扱管理者：榊原晋治

“いい旅”育てて55年

ユーラスツアーズ

☎ 03-6453-6633

FAX 03-6453-6630 団体旅行課（滝澤・榊原・徳植）

〒108-0014 東京都港区芝 5-13-18 いちご三田ビル 9階

● Eメール: tokyo@euras.co.jp

● URL: <http://www.euras.co.jp>

● 営業日：平日（月～金曜日）9:30～17:30 / 土・日曜日、祝日は休みです

※当パンフレット掲載の写真はすべてイメージです。

株式会社タビーズ

〒108-0014 東京都港区芝 5-13-18 いちご三田ビル 9階

参加予約票 「未来エネルギー」国際万博とセミパラチンスク核実験場跡 訪問ツアー

(ユーラスツアーズ宛)

①	氏名	フリガナ:	電話
			FAX
	住所		携帯
			メール
②	氏名	フリガナ:	電話
			FAX
	住所		携帯
			メール

※当「参加予約票」をお送りいただいた後、当社より申込みに必要な諸案内を記載いただいたご住所へお送りいたしますので、渡航手続きを書面に沿ってお進めください。

「未来エネルギー」の可能性と必要性を訴える万博見学と旧ソ連の核実験場を訪れ、あらためて「核兵器」の脅威を考える

アスタナ万博とセミパラチンスク核実験場跡を訪問

History of the Semipalatinsk Test Site
/ August 29, 1949 /
explosion of the first Soviet ATOMIC BOMB RDS-1

At least 65 nuclear and thermonuclear devices were detonated including at least 30 ground nuclear explosions

At least 40 nuclear tests were carried out including at least 85 atmospheric nuclear explosions

2 kilotons

30 meters

Within dangerous zones of the former polygon radioactive background IS STILL UP TO 1000 mR/hr 2000 mR/hr

The Semipalatinsk Test Site: Established by the decision of the Council of Ministers of the USSR / August 21, 1947 / Located on the territory of three regions Semipalatinsk (modern East Kazakhstan) Pavlodar Karaganda

カザフスタンの経済発展は目覚ましく、中央アジアの経済大国として大いに注目されています。アスタナ世界万博は、中央ユーラシアで初めての開催です。独立から25年、新たな国づくりの成果を目にすることができます。セミパラチンスク核実験場では、ソ連の核実験が456回も行われ、約150万人もの放射能被害者が出ています。ヒロシマ、ナガサキと連帯する反核運動も広がっています。中央アジア非核地帯を実現し、国連核兵器禁止条約を後押ししています。こうした人たちの交流も楽しみです。

日本ユーラシア協会ならではの旅

- すべての人類のためのエネルギーをテーマとした万博を見学
- 旧ソ連が40年にわたり456回の核実験を行った実験場跡へ
- 現地研究機関の訪問、非核政府となった国策などについて懇談

▶ 9/2[⊕]～9/10[⊕]
▶ 355,000円 ▶ 8/1(締切)

カザフスタン 9日間 旅行代金・諸条件	
旅行期間	2017年9月2日(土)～9月10日(日)9日間
旅行代金	355,000円 (※2名1室利用)
実施人数	30名様(最低実施人数15名様)
申込締切	8月1日(火) ※定員になり次第、締切ります
別途費用	燃油サーチャージ(10,770円) 諸税(5,980円)
1人部屋	36,500円 ※1人部屋利用(相部屋の方がいない場合も要追加費用) ※寝台車は4～6名寝台で個室・2名部屋はりません。

○添乗員同行(1名) ○利用航空会社: アシアナ航空、アスタナ航空
○利用予定ホテル: アスタナ(カゾール)、列車中(2等車、セメイ(ノマッド))

日次	スケジュール	[食事(朝・昼・夕)] / 宿泊地
1	9/2 成田《午後12:00～13:30》→空路アジアの都市へ着後、乗継手続き～→カザフスタン共和国の首都アスタナへ《夕刻》着後、宿泊ホテルへ	✉ ✈ ✈ アスタナ
2	9/3 《終日》「2017年アスタナ国際博覧会」を見学【テーマ】Future Energy(未来のエネルギー)「未来のエネルギー」に向けて、確実かつ持続可能なエネルギー政策やテクノロジーの開発の必要性を訴える【サブテーマ】①CO2の排出削減 ②省エネルギーの活用 ③すべての人類のためのエネルギー(※アスタナ博覧会案内より)	✉ ✈ ✈ アスタナ
3	9/4 《午前》アスタナ市内見学＝神話に基づいて建築されたシンボルタワー◎バイテレク、◎独立広場、中央アジア最大のモスク◎ハズレット・スルタン・モスクなど《午後》寝台列車にてソ連が核実験場としていたセミパラチンスクへ(現セメイ)	✉ ✈ ✈ 列車中
4	9/5 《午前》セメイ到着後、専用車にてクルチャトフへ《午前》セミパラチンスク核実験場博物館を訪問*過去の核実験と放射能被曝についての説明*博物館内の見学《午後》放射能安全生態学研究所を訪問*研究所が担う役割と現在の研究について*国策として非核政府になった経緯など陸路、再びセメイへ	✉ ✈ ✈ セメイ
5	9/6 《早朝》陸路、セミパラチンスク核実験場跡地へ《終日》セミパラチンスク核実験場跡地の見学*1号実験場跡、*実験観測所跡、*鉄道線路跡※核実験場跡地は広大なため、移動に時間を要します。また見学順序や見学日が変わる場合があります。見学後、再びセメイへ	✉ ✈ ✈ セメイ
6	9/7 《早朝》陸路、セミパラチンスク核実験場跡地へ《終日》セミパラチンスク核実験場跡地の見学*鉄塔、*トーチカ跡、*原子力テクノロジーパーク見学後、再びセメイへ	✉ ✈ ✈ セメイ
7	9/8 《午前》セメイ(セミパラチンスク)車窓見学＝○街並みを車窓にて見学～セメイ駅へ《11:20発》寝台車でカザフスタンの経済文化の中心であり「南の都」と呼ばれる風光明媚な街アルマトイへ	✉ ✈ ✈ 列車中
8	9/9 《午前》アルマトイ市内見学＝●カザフ民族楽器博物館●国立中央博物館、活気あふれる◎パザール、祖国の戦士を讃える◎パンフィロフ戦士公園《16:00発》→空路、アスタナへ～アスタナで乗り継ぎ、→空路、アジア都市へ	✉ ✈ ✈ 機中
9	9/10 《午前09:00～10:00着》アジア都市内で乗り継ぎ《午後15:30発》→空路、帰国の途へ《午後18:00頃》成田着	✉ ✈ ✈

註: ✈ 印=食事付き、✉ 印=自由食、✈ 印=機内食、OP=オプションツアー、●印=入場見学、◎印=下車見学、○印=車窓見学、→=航空機、✈=専用車、✈=鉄道(2等車指定席)
※セミパラチンスク核実験場跡地は、日本の四国ほどの面積を有します。宿泊地から(へ)の移動に時間を要しますので、予めご承知おきください。

『非核世界への道をリードするカザフスタン』

「1991年8月29日は、わが国にとっても世界全体にとっても歴史的に重要な意義を持つ日です。私たちは25年前、それまでほぼ40年にわたってこの大地と国民を常に苦しめてきた軍事主義がもたらした最も邪悪な実験(=核実験)に、法的な終止符を打ちました。また国際社会は、それ以前の数十年間にわたって、核兵器削減プロセスや核実験モラトリアムを通じて、核の脅威を引き下げる努力を続けてきました。」

ナザルバエフ大統領はさらに、「カザフスタンは、当時世界最大のセミパラチンスク核実験場を閉鎖する法令を採択することで『ゴルディアスの結び目』(核兵器依存という難題)を断ち切る最初の国になりました。この決定の後、すべての主要な核保有国の実験場は利用されなくなりましたが、未だに閉鎖はされていません。カザフスタンは核実験場の閉鎖に踏み切った初めての国になりました。これは我が国の国民の意志の力で実現したものです。従ってこの出来事は、地球全体にとっても重要な先例となっています。」と語った。

8月29日の国際会議は、カザフスタン共和国上院議会、同国外務省、核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)の共催で首都アスタナの「独立宮殿」で開催された。

※「『核兵器のない世界の構築を目指す』核各軍縮国際会議カザフスタン』より/2016.8.28-29



●カザフスタン共和国

西はカスピ海に面し、東は天山山脈を隔て中国に接する世界第9位の面積を持つ中央アジア北部の大国。北はロシア、東は中国、南はキルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタンに接し、西はカスピ海に面する。国土の大部分は平野と低地であるが、中部から東部にかけてカザフ丘陵があり、東端部にアルタイ山地、南部にテンシャン(天山)山脈の各一部が入る。

「南の首都」と呼ばれるアルマトゥは、かつて数々の遊牧民族が活躍し、シルクロードのオアシスとして栄え、東西のさまざまな文化が混ざり合った場所。また、かの有名なヘミングウェイの妻メリーは、アルマトイの街を「世界で一番美しい」といったほど、大自然とシルクロード文化が織り成す風光明媚な都市。

17世紀中頃、カザフ人は三つのホルド(遊牧民の集団)を形成して遊牧生活を送っていたが、東方の遊牧民族の侵略にあい、ロシアの保護を求め、18世紀中頃までに今日のカザフスタン全域がロシアの属国となった。1920年この地域にキルギス自治共和国が成立し、1925年カザフ自治共和国と改称、1936年カザフ=ソビエト社会主義共和国としてソビエト連邦構成共和国となった。1991年12月にカザフスタン共和国と改め、独立。独立国家共同体 CIS に加盟する。

セミパラチンスク核実験場



●セメイ(セミパラチンスク)

西方150キロの核実験によって、多くの住民が苦しめられた町



1718年にロシア人が城砦を築き、初めての入植を行った。城砦の原型となった仏教寺院跡から、「7つの部屋の町」を意味するセミパラチンスクと名付けられ、河川交易に携わる住民によって都市が形成された。1910年代末に鉄道が敷設されて

中央アジアとシベリアの交通の要所として繁栄する。作家のドストエフスキーが兵役期間中に、当地で勤務したほか、カザフ国民文学の祖とされるアバイ・クナンバエフが学生時代を過ごしたことで知られる。

旧ソ連時代のカザフ共和国は、核開発の最重要拠点の1つと位置付けられ、共和国内には6箇所の実験場が設けられた。とりわけセミパラチンスク核実験場は、旧ソ連が実施した核実験約700回のうち、1949年から89年まで40年にわたり空中、地上、地下で計456回の核爆発実験が実施される。カザフ共和国(現カザフスタン)の北東部、セメイの西方150kmの草原地帯、面積は約18,000km²(四国の面積にほぼ等しい)の広大な土地を実験場とし、その爆発威力の合計は広島型原爆の2500倍、放射能汚染の規模はチェルノブイリ原発事故の5000倍といわれている。91年8/29に正式に閉鎖されてから26年が経過している現在でも30万平方キロの生態系が被害を受け、残留放射能や体内被ばくによる周辺住民の健康被害、世代を迫って深刻になっている傷害など、今なお深刻な問題とされている。

●アスタナ

コサックの砦として誕生した首都



カザフスタン共和国の首都。1997年にアルマトイから遷都された。旧称はアクモリンスク、ツェリノグラード、アクモラ。「アスタナ」はカザフ語で「首都」の意味。イシム川右岸にある。推計人口100万人(2016年)でアルマトイに次いで同国2位。1998年のカザフスタン政府主催の国際コンペで1位に選ばれた日本の建築家・黒川紀章の都市計画案に基づき開発が続けられている。

●アルマトイ

シルクロードのアオシスとして栄え、文化が華開いた大都市



カザフ国立大学をはじめ、多くの教育機関がある中央アジア最高水準の都市であり、1998年まで首都であった。カザフスタン最大の街であり、唯一の百万都市。キルギスと中国との国境近くに位置し、数々の遊牧民が活躍し、東西様々な文化が混じり合い繁栄した都市。天山山脈のウ山脈の眺望を楽しめる。活気あふれる多種多様なパザールや民族の歴史や伝統楽器などを展示する博物館なども見どころの1つ。

2017年 アスタナ国際博覧会 EXPO2017 ASTANA



中央アジアで初の「国際博覧会」が、カザフスタン共和国の首都・アスタナで、2017年6月から9月の3ヶ月間、「2017アスタナ国際博覧会」(いわゆるアスタナ万博)が開催されます。日本との縁も深い新首都・アスタナでの開催。テーマは「"Energy of the Future"未来のエネルギー」。

日本を含めて115カ国と22の国際機関が参加し、各パビリオンでは風力や太陽光のほか、波力や廃棄ゴミなどの持続可能なエネルギーや技術開発の必要性を訴える展示などが行われる。